

広島県の分権改革の流れ

我が国の現状

社会環境の変化

- 「中央集権」から「地方分権」へ
- 「増大(右肩上がり)」から「縮小(右肩下がり)」へ
- 人口の減少、少子・高齢化社会の急速な進展
- 低経済成長時代の到来

価値観、住民ニーズの変化

- 「量的拡大」から「質的充実」へ
- 「画一・平等」から「個性・多様性」の尊重へ

広島県の現状

目前に迫った市町村合併

- 市町村数は1/3に減少、大半が「市」に移行

県・市町村を通じ財政はバンク状態

- 未曾有の危機的財政状況、さらに三位一体改革による影響も懸念

求められる効率的で“小さな”行政

行政への影響

「これまでの行政は変わらざるを得ない」

サービス提供主体の“最適化”

- 国・県・市町村、行政と民間の役割分担の明確化、行政の守備範囲の見直し

事務執行の“最適化”

- 業務プロセスの改革、規制の緩和・撤廃、国・県・市町村の重複行政の排除

資源配分の“最適化”

- 限られた行政資源(カネ・人・モノ)を真に重要かつ必要な政策課題へ最適配分

分権改革の手法

●市町への大胆な事務・権限移譲

- 可能な限り、合併後の基礎的自治体が総合的な行政主体として、住民に身近な事務を処理する行政システムを構築

●市町の行政体制整備への総合的な支援

- 市町が移譲された事務を円滑に行うため必要な財源措置や人的支援措置等

分権改革の目指すもの

●個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現

●自己完結型自治体への転換

地方分権改革(広島型システム)を徹底的に推進

県の将来像 (分権フレーム)

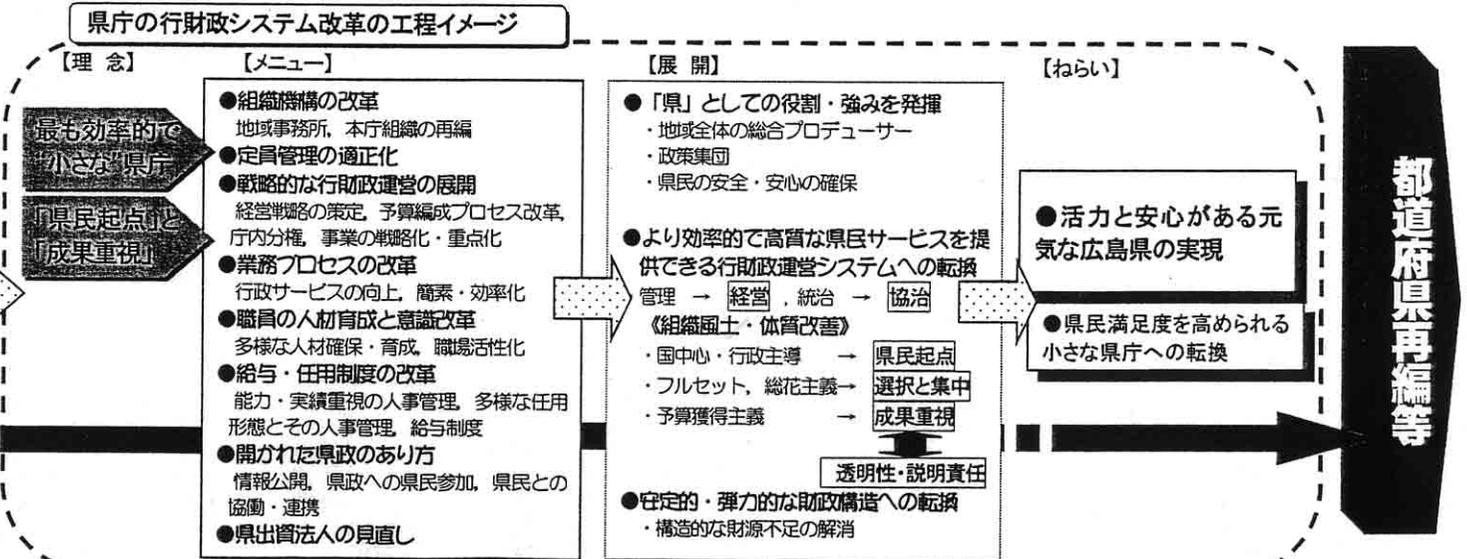
- 国・県・市町村、行政と民間の役割分担の抜本的見直し
- 国・県・市町村の役割分担の明確化
- 行政の守備範囲の見直し

↓

「県」の役割分担を明確化

↓

県庁の改革



都道府県再編等